

島根県公共事業再評価 対応方針（案）

作成日 平成30年 6月

番号	事業概要・事業主体等	事業の進捗状況	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等	事業効果	環境への配慮 事業を中止した場合の影響	今後の県の方針案
	(事業概要) (事業主体の根拠)	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) (進捗状況と今後の見込み)	(事業導入の経緯・目的) (事業を取り巻く社会情勢) (事業に対する地元情勢・計画の熟度)	(費用対効果) (コスト削減・代替案等) (その他の効果)	(生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	(継続・中止)
12	<p>(事業名・地区) 忌部川 総合流域防災事業</p> <p>(事業位置) 松江市乃木福富町～乃白町</p> <p>(事業費) 2,933,000 千円</p> <p>(事業概要) 全体延長 L=2,384m</p> <p>築堤、掘削、護岸、床止、橋梁、堰</p> <p>(事業主体の根拠) 河川法第9条2項</p> <p>(再評価区分) ④再評価実施後5年経過し継続中</p> <p>(担当部課名) 土木部河川課</p>	<p>(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 事業採択年度：昭和50年度 用地着手年度：昭和50年度 工事着手年度：昭和50年度 完了予定年度：平成36年度 経過年数：44年</p> <p>(進捗状況と今後の見込み) 進捗率：90% 用地：98% 工事：83%</p> <p>平成36年度完了見込み</p>	<p>(事業導入の経緯・目的) 忌部川は現況流下能力が低く、昭和39年から昭和47年にかけて、度重なる出水により家屋や田畑等に甚大な浸水被害が発生した。そのため、早急な河川改修が必要となった。</p> <p>(事業を取り巻く社会情勢) 山陰道松江道路及び(主)松江木次線の整備が完了し、土地区画整理事業を含み、沿川の宅地化、松江市立病院の建設、商業施設の建設等、急速な土地利用が図られている地域である。従って、今後とも沿川の土地利用が活発になるものと予想される。</p> <p>(事業に対する地元情勢・計画の熟度) 再度の災害を防止するため、沿川住民及び松江市が、河川改修の早期完成を強く要望している。</p>	<p>(費用対効果) b/c=2.74</p> <p>(コスト削減・代替案等) 事業の実施にあたっては、残土の有効利用等コスト削減に努める。</p> <p>(その他の効果) 宅地化、病院建設及び商業施設の建設等、急速な土地利用が図られている区域であるため、浸水被害を低減することにより、安全な生活基盤及び民生の安定を図ることができる。</p>	<p>(生活環境・自然環境への影響) 自生植物が繁茂するよう植生に配慮したブロック積護岸工を採用するなど、多自然川づくりに務める。</p> <p>(事業を中止した場合の影響) 現況流下能力が改修計画に対し、3割程度しかない箇所があり、浸水被害が頻発する可能性が高い。</p> <p>・浸水被害履歴 S39、40、47</p> <p>S39：床上2戸、床下280戸、浸水面積159ha</p>	<p>(方針案) 継続</p> <p>(継続・中止の理由) 現況流下能力が著しく低く、浸水被害の防止を図れないことから治水対策を継続することは必要である。 現在は、治水上のネックとなっている市道橋の改修を進めており、上流部の改修とあわせ早期に完成させる必要がある。</p>

忌部川 総合流域防災事業

河川概要

忌部川は松江市の橋南市街地を流下し、宍道湖に注ぐ河川延長約7.3kmの一級河川である。沿川には家屋が連担しており、河道が狭小であることから、S39年、S47年の梅雨前線豪雨等による洪水で大きな浸水被害が発生している。忌部川の河川改修を行うことで、地域の安全・安心に大きな役割を果たす。

事業概要

1. 年超過確率1/30規模の洪水に対して沿川の浸水被害解消を図る。
2. 河川の拡幅、河床の掘削、堤防の築造、橋梁等の改築により流下能力の向上を図る。



①改修前状況 (H26.10)



②改修後状況 (H30.5)



標準断面図

